

2026.5.15



2026年3月期 決算概要

2026年3月期 連結損益計算書の概要

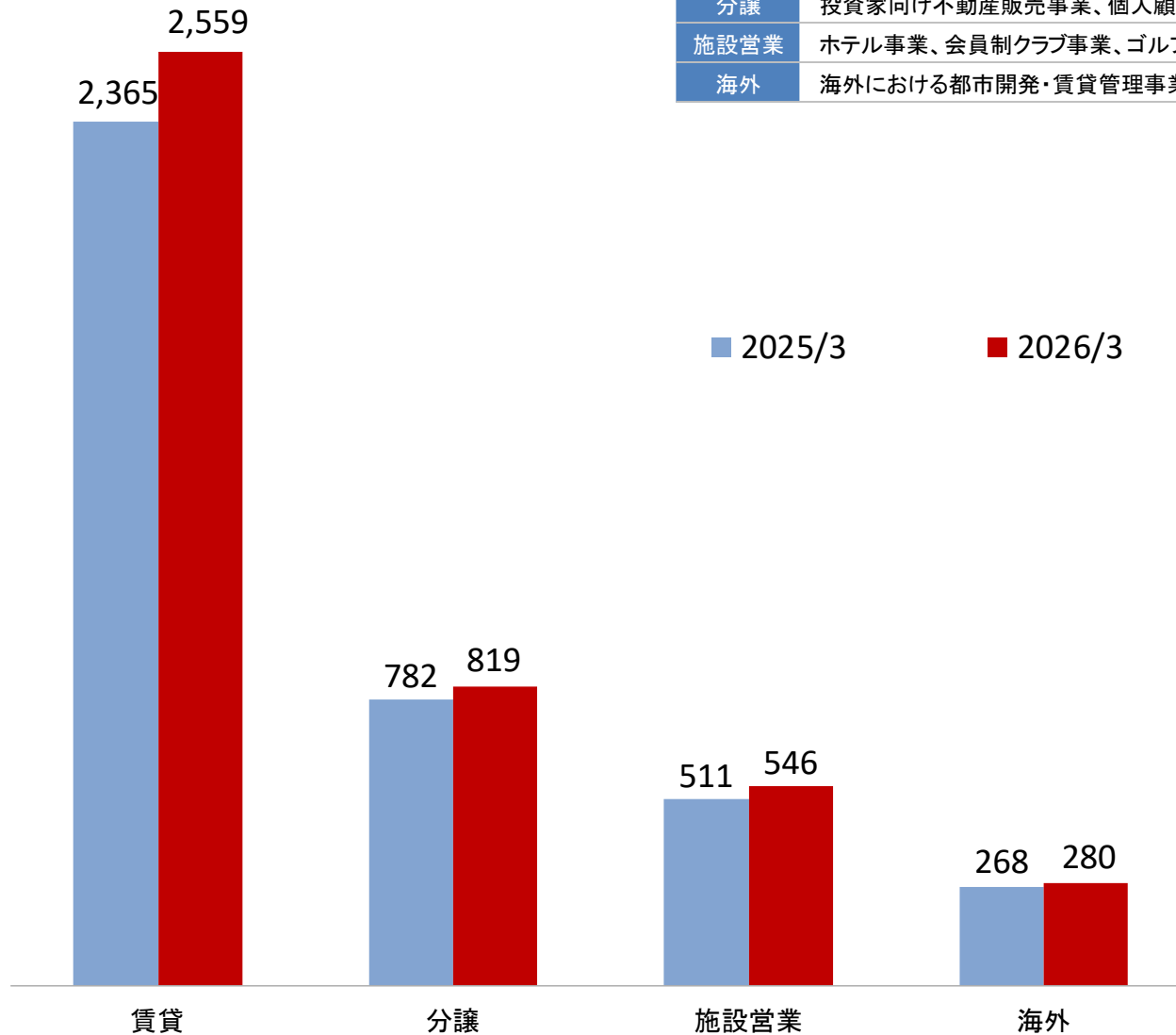
(単位:億円)

	2025/3	2026/3	増減
営業収益	3,858	4,111	+6.5%
営業利益	842	979	+16.2%
営業外損益	△57	△67	
経常利益	785	912	+16.1%
特別損益	△12	△46	
税金等調整前当期純利益	773	866	
親会社株主に帰属する当期純利益	504	530	+5.1%
EBITDA※	1,357	1,515	+11.6%

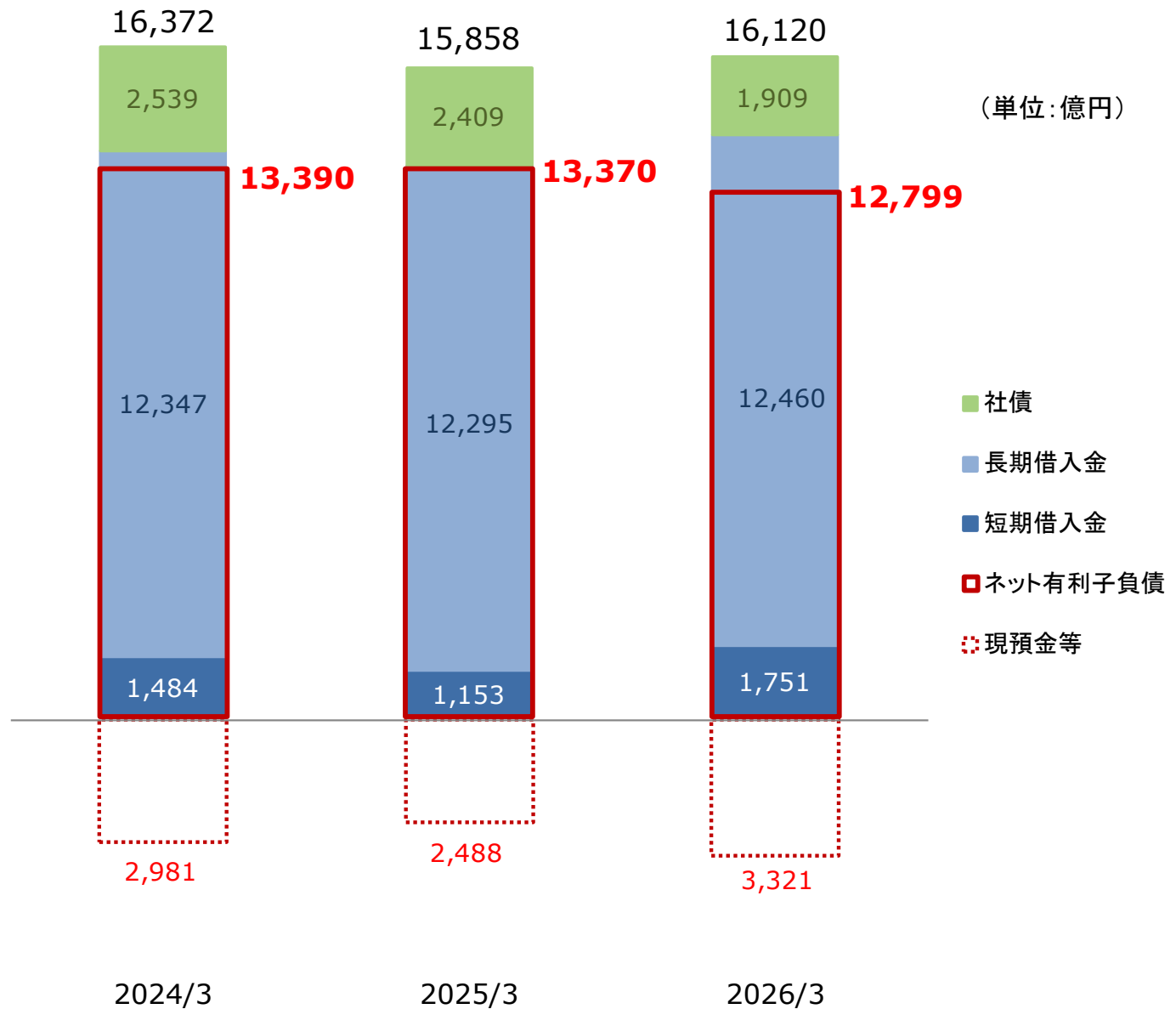
※営業利益+受取利息・配当+持分法投資損益+減価償却費+のれん償却費

■セグメントの内容

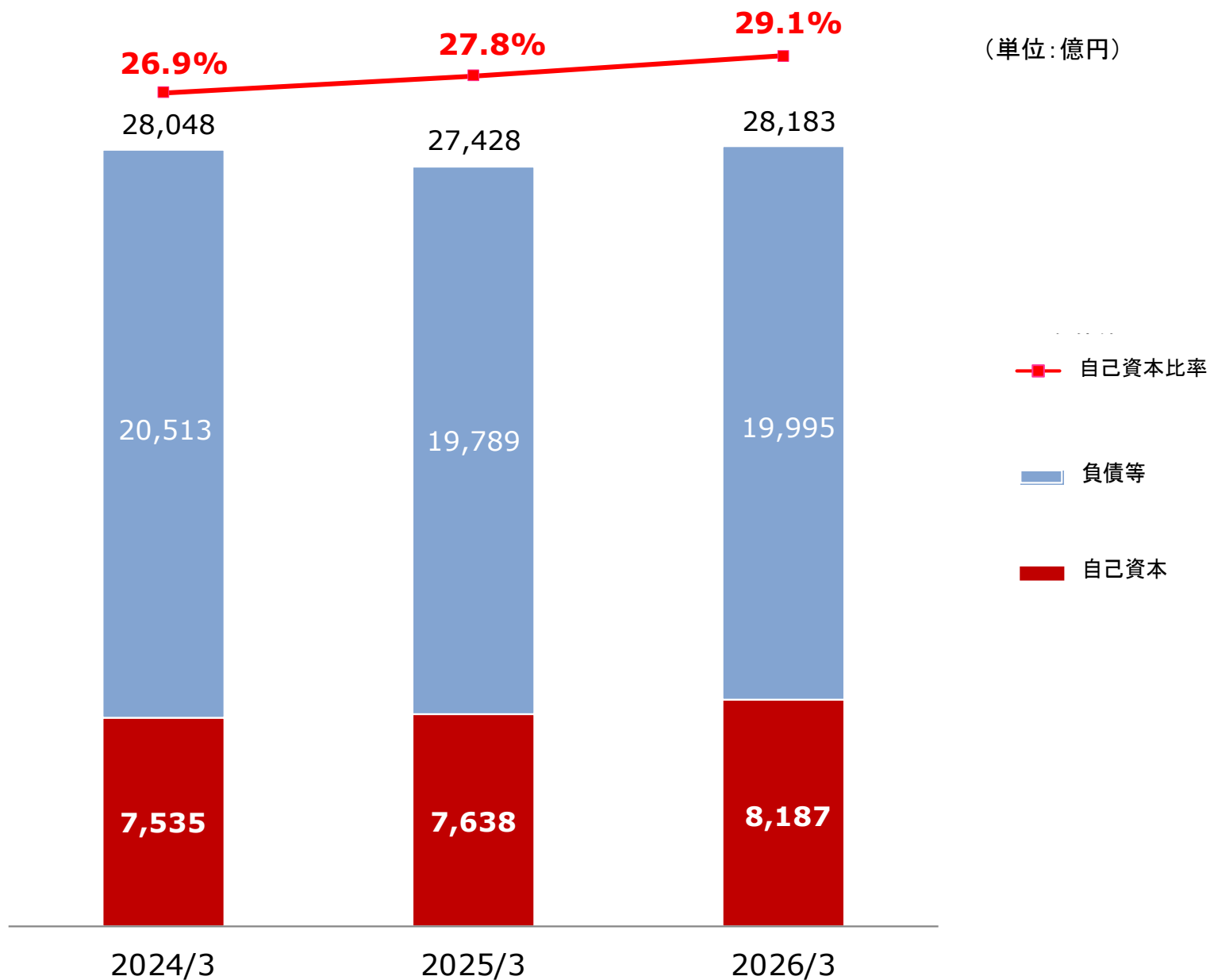
賃貸	賃貸管理事業、運営受託事業、請負工事事業、地域冷暖房・電気供給事業等
分譲	投資家向け不動産販売事業、個人顧客向け住宅分譲事業
施設営業	ホテル事業、会員制クラブ事業、ゴルフ事業
海外	海外における都市開発・賃貸管理事業等



2026年3月期 有利子負債の状況



2026年3月期 自己資本(比率)の状況



2027年3月期 業績予想

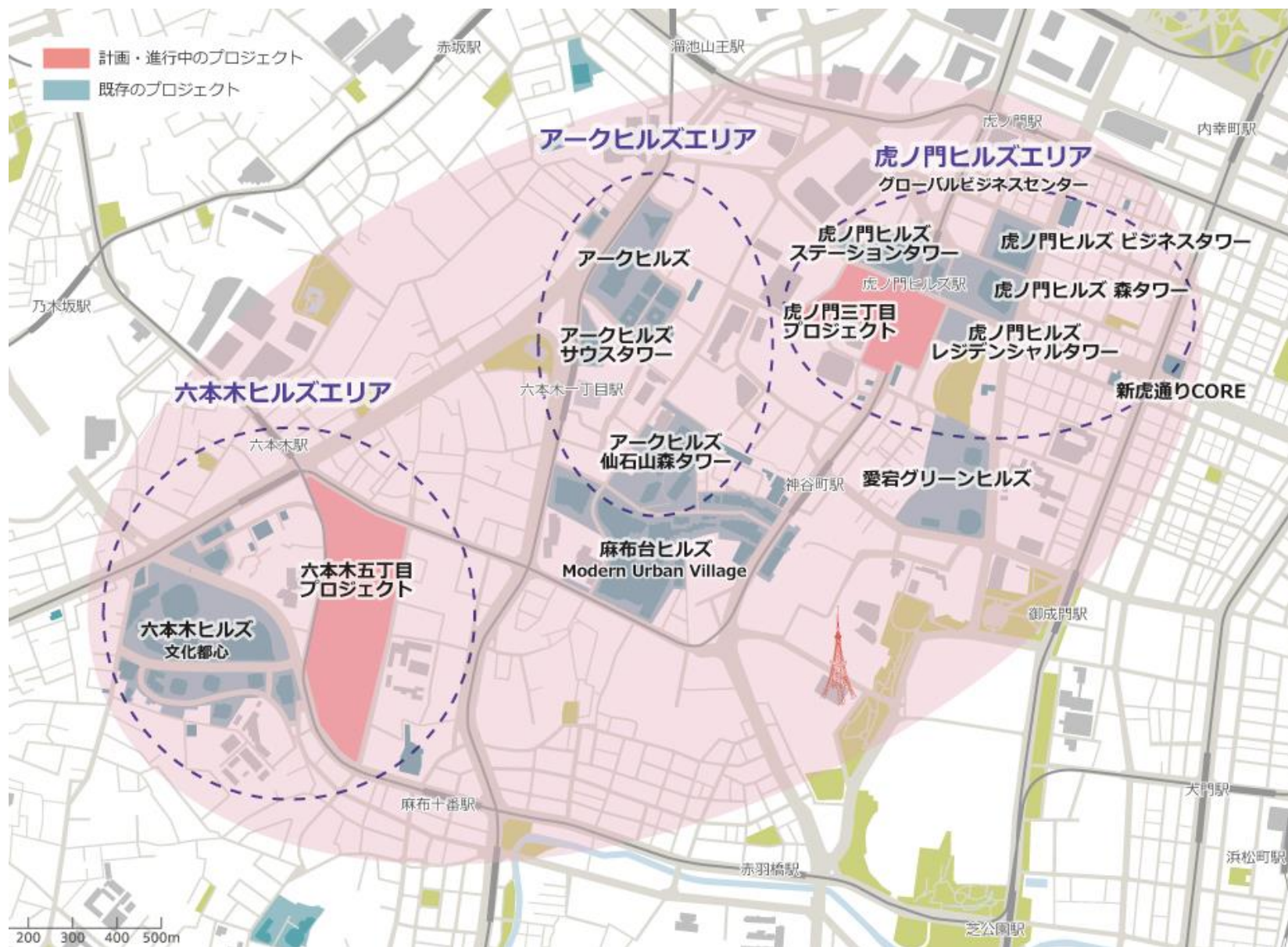
(単位:億円)

	2026/3	2027/3 予想	増減
営業収益	4,111	4,370	+6.3%
営業利益	979	1,065	+8.7%
経常利益	912	920	+0.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	530	580	+9.3%
EBITDA	1,515	1,620	+6.9%

森ビルの取り組み

※ 進行中のプロジェクトについては現段階での計画概要に基づいたものです。
完成時には一部異なる場合がございます。あらかじめご了承ください。

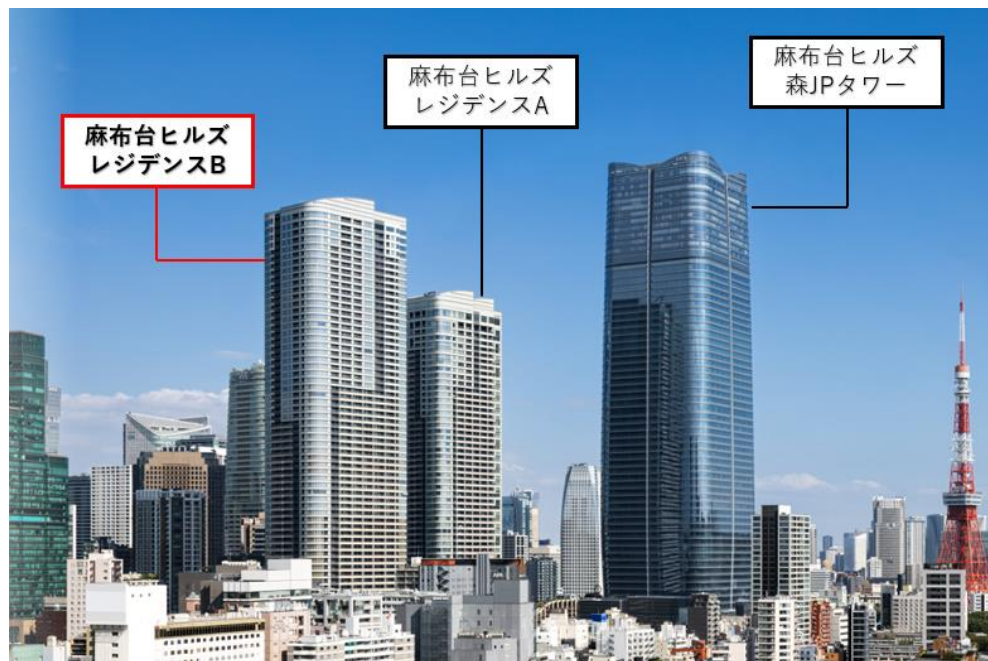
現在計画・進行中の当社プロジェクト



「麻布台ヒルズ」

「レジデンスB」が竣工し、「麻布台ヒルズ」が完成

- 1989年の「街づくり協議会」設立以降、35年超という長い年月をかけて、立場や事情の異なる約300名の権利者の方々と粘り強く議論を重ねながら推進してきた麻布台ヒルズが、2025年10月29日の「レジデンスB」の竣工をもって完成。
- 新たに家具付き短期賃貸のサービスアパートメントを含む970戸の住宅、68区画の小規模オフィス、7店舗の商業施設が誕生し、麻布台ヒルズがさらに進化。総住戸数は約1,400戸となり、アークヒルズ、六本木ヒルズ、虎ノ門ヒルズなどを越えて最大の供給量に。
- 「レジデンスB」の竣工により、先行して併用されていた「桜麻通り」に加えて「八幡通り」や地下通路「セントラルウォーク」も完成したことで、周辺地区を含むエリア全体の回遊性と交通アクセスが大幅に向上。
- 「レジデンスB」の竣工により、麻布台ヒルズ全体で約3,600人が一時滞在できる約6,000㎡の受入れスペースを完備。地域の防災拠点としての機能をさらに拡充。



麻布台ヒルズ レジデンスB



東西南北の交通網の整備によりエリアの回遊性が飛躍的に向上

- 街のコンセプトを支える柱の1つである「Green」を体現すべく、麻布台ヒルズの豊かな“緑”を巡る「みどりのツアー」や、四季折々のグリーンを満喫できるイベント「MAY AT THE GREEN 2025」を開催。2025年4月からは親子向けの「FAMILY GREEN アトリエ」も定期開催し、これまでに延べ約2,000名が参加。中央広場では、「キッズプログラム & モーニングヨガ」や麻布台ヒルズ周辺を走る「RUN SESSION」なども開催中。
- もう1つの柱である「Wellness」についても、慶應義塾と森ビルによる共同研究の一環として、麻布台ヒルズの入居企業の従業員を対象に、「働く人の健康・ウェルビーイング調査」を2024年から実施。医療施設を核として、スパやフィットネスクラブ、レストランやフードマーケットといった様々な施設を連携させることで、この街に住み、働くことのすべてがウェルネスに繋がる仕組みを構築中。



みどりのツアー



キッズプログラム & モーニングヨガ



FAMILY GREEN アトリエ



慶應義塾によるワーカー向けウェルネスセミナー



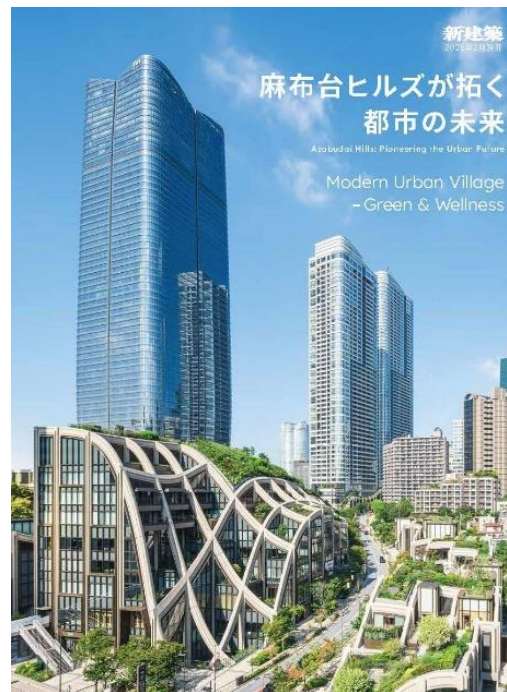
RUN SESSION



チームラボボーダレスでのウェルネスプログラム

森ビルの都市づくりを次代につなぐ書籍2冊を同時発刊

- 森ビルの「都市づくりの挑戦の歴史」と「麻布台ヒルズ開業までの軌跡」を取りまとめた書籍2冊が、建築画報社および新建築社から同時発刊。
- 建築画報「森ビルの挑戦 vol.2」では、ヒルズに通底する思想を明らかにし、これからの未来に求められる「都市」の在り方を提起。森ビルの都市づくりの挑戦の歴史に加え、各ヒルズの魅力を、働く、住むといった人々の「営み」の「場」と、タウンマネジメントや環境、ウェルネスなど「営み」を支える「仕掛け」という2つの切り口から紹介。
- 新建築「麻布台ヒルズが拓く都市の未来」では、「ヒルズの未来形」として、森ビルが35年超の年月をかけて開発した「麻布台ヒルズ」の全てを記録し、紹介。プロジェクトの概要から地域住民との対話、開発経緯をはじめ、多様な都市機能や、街を支える最新テクノロジーや施工技術まで網羅し、「麻布台ヒルズ」の全貌を明らかに。



(左)
建築画報 405
『森ビルの挑戦 vol.2』

- 発行・編集: 株式会社建築画報社
- 発行日: 2026年3月30日
- 体裁: A4変形判
- 145頁オールカラー
- 定価: 4,180円(税込)

(右)
新建築3月別冊
『麻布台ヒルズが拓く都市の未来』

- 発行・編集: 株式会社新建築社
- 発行日: 2026年3月30日
- 体裁: A4変型判
240頁オールカラー一日英併記
- 定価: 4,000円(税込)

「虎ノ門ヒルズ」

「グラスロック」が開業し、ステーションタワーの再開発事業が完結

- 虎ノ門ヒルズ「グラスロック」が、2025年4月9日に開業。これにより、虎ノ門ヒルズ ステーションタワーの再開発事業が完結。
- 虎ノ門ヒルズエリアの中心に位置する地上4階・地下3階、延床面積約8,800㎡の複合施設。地下2階では東京メトロ日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」の駅前広場に直結。2階部分を幅員20mの大規模歩行者デッキ「T-デッキ」が貫通。虎ノ門ヒルズエリアの交通結節機能及び回遊性の向上に貢献。
- 飲食・物販など、7店舗を擁する「グラスロック」により、虎ノ門ヒルズエリアの店舗数は約170店舗・約26,000㎡へとさらに拡大。
- 地上4階・地下1階には会員制施設「Glass Rock」が誕生。社会課題解決のために「政策」と「ビジネス」を掛け合わせ、企業や行政、NPO・NGO、個人など領域を超えた連携により、イノベーションの創出と持続可能な社会の実現を目指す。



グラスロック



PLAY PARK



ワーカーズナイト



TORANOMON HILLS WINE FES



Hills Breakfast

- 東京・日本の課題でもあるイノベーションや新ビジネスの創出に向けて、虎ノ門ヒルズや麻布台ヒルズを舞台に、独自のイノベーションエコシステム構築に向けて推進中。
- 「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」には、大企業の新規事業創出に特化したインキュベーション施設「ARCH Toranomom Hills」(約120社、約900名が参画)や日本最大級のスタートアップ集積拠点「CIC Tokyo」(350社以上)が集積。「森タワー」ではエリア最大のカンファレンス施設「虎ノ門ヒルズフォーラム」、「ステーションタワー」最上部と低層部では情報発信拠点「TOKYO NODE」、「麻布台ヒルズ」では、ベンチャーキャピタル集積拠点「Tokyo Venture Capital Hub」を運営。
- さらに、2025年4月に開業した会員制施設「Glass Rock」では、社会課題解決のために「政策」と「ビジネス」を掛け合わせ、クロスセクターのイノベーションの創出と持続可能な社会の実現を目指す。



ARCH Toranomom Hills(ビジネスタワー)



CIC Tokyo(ビジネスタワー)



TOKYO NODE(ステーションタワー)



虎ノ門ヒルズフォーラム(森タワー)



Glass Rock(グラスロック)



Tokyo Venture Capital Hub(麻布台ヒルズ)

「六本木5丁目プロジェクト」を推進中

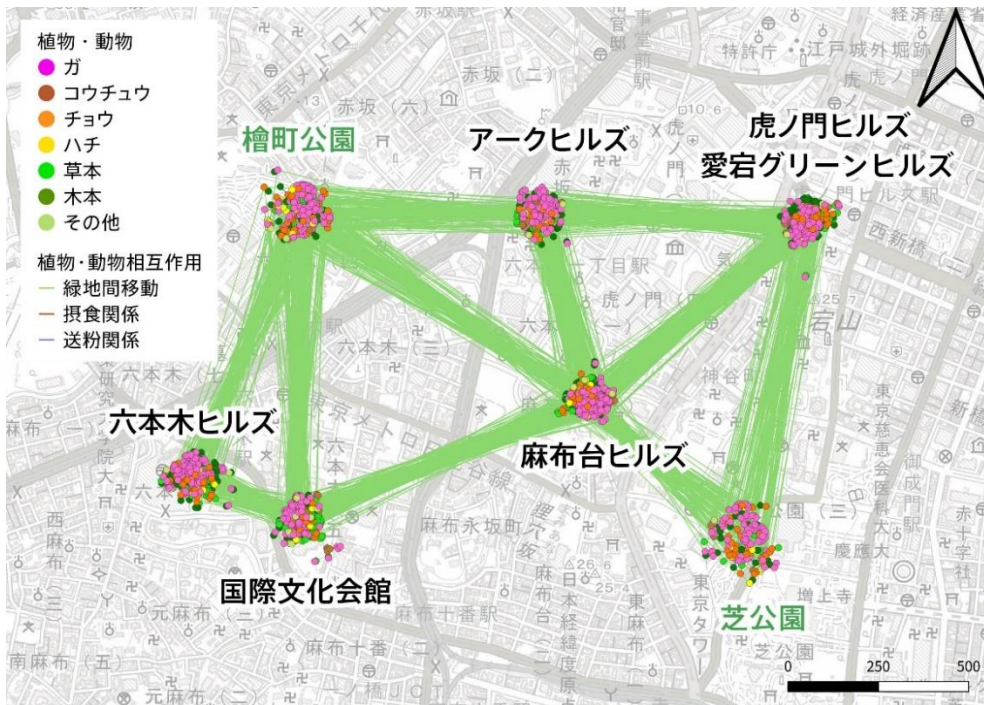
- 2023年7月に「六本木5丁目プロジェクト」の都市計画提案を実施し、2024年3月に都市計画決定。
- 区域面積約10ha、延床面積約108万㎡、地上66階・高さ約330mの超高層タワーを核とし、オフィス、住宅、ホテル、商業施設、文化施設などを備えた日本最大級の再開発事業。
- 広大な敷地を人工地盤で一体的に覆い、さらにその上を緑で覆うことで、約16,000㎡の屋上庭園「都心の森」を創出。
- ラグジュアリーライフスタイルホテル「ローズウッド」が東京初進出。

※住友不動産と共同参画する市街地再開発事業



ヒルズと周辺緑地間でエコロジカルネットワークを形成

- 自然関連財務情報開示タスクフォース(Taskforce on Nature-related Financial Disclosures、TNFD)の提言に基づき、長年にわたる都市づくりを通じた生物多様性に関する情報を2025年6月に開示。
- 1986年のアークヒルズ以降、都市の緑化に積極的に取り組み、1990年時点で1ha余りだった緑地が、現在では延べ約12haにまで拡大。六本木ヒルズ、麻布台ヒルズ、虎ノ門ヒルズなど各ヒルズで創出した緑地が中継地となり、皇居や芝公園など周辺の主要な緑地との相互作用により、約180種の昆虫が往来可能となる都心部のエコロジカルネットワークを形成し、生物多様性の維持・拡大に貢献していることが明らかに。
- さらに、各ヒルズ内の土壌は、開発時の設計思想や、竣工後の管理・運営、時間の経過による土壌の熟成等により、土壌微生物の多様性が豊かであり、里山に近い炭素蓄積の豊富な土壌が醸成されていることが明らかとなった。



約180種の昆虫の往来が可能となるヒルズのネットワーク図



千代田区 2011年
ヒカゲチョウ
東京都RDB
NT (準絶滅危惧種)



千代田区 2010年
ウラミアアカシジミ
東京都RDB
VU (絶滅危惧II種)



東京都外 2011年
オオミズアオ
東京都RDB
VU (絶滅危惧II種)



武蔵村山市 2021年
アカシジミ
東京都RDB
VU (絶滅危惧II種)

※出典：東京都レッドデータブック (本土部) 2023

ヒルズを舞台に多様な子ども向けワークショップを展開

- 街がまるごと学び場になる、子どもが主役のワークショップとして、2006年以来、毎年夏に「ヒルズ・ワークショップ フォー・キッズ」を開催。六本木ヒルズや虎ノ門ヒルズ、アークヒルズ、麻布台ヒルズのテナント企業や店舗などと連携し、街を舞台に子どもたちに学びの場を提供している。2025年7月26日～8月17日は、プログラムの内容や対象年齢も拡充し、120種類463講座のプログラムを開催し、5,500人超が参加。
- また、森ビルがこれまでに培ってきた街づくりの知見・ノウハウを活かし、楽しく学びながら、次世代の都市のあり方を考える「ヒルズ街育プロジェクト」を年間を通じて約30回開催。「安全」「環境」「文化」といった街づくりの重要テーマを総合的に5日間かけて学ぶ「未来の街を考えよう！ miraまちキャンプ2026」を開催したほか、近隣小学校への出張授業なども行い、年間延べ1,852人を動員。
- 日本を代表する約30の専門店が集結する大規模なフードマーケット「麻布台ヒルズ マーケット」では、食の本質的な楽しさや豊かさの提供を目指してワークショップ等を開催。2025年度は約80回（うち子ども向け約30回）のワークショップに延べ約730人が参加。

●「ヒルズ・ワークショップ フォー・キッズ 2025」



●「ヒルズ街育プロジェクト」

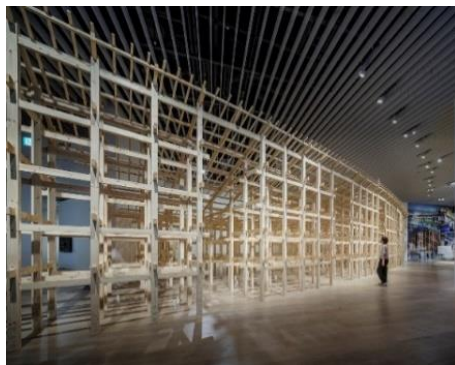


●「麻布台ヒルズ マーケットラボ」でのワークショップ



様々なヒルズでアートイベントや展覧会を開催

- 六本木ヒルズの森美術館では、7月2日～11月9日まで、「藤本壮介の建築：原初・未来・森」を開催し、23万人以上が来場。12月3日～2026年3月29日には、「六本木クロッシング2025展：時間は過ぎ去るわたしたちは永遠」を開催。
- 麻布台ヒルズの森ビル デジタルアート ミュージアム：エプソン チームラボボーダレスは、2026年2月9日に開館2周年を迎え、世界170以上の国・地域から324万人以上が来館。麻布台ヒルズギャラリーでは、2025年6月27日～9月15日まで「高畑勲展—日本のアニメーションを作った男。」を開催。
- 虎ノ門ヒルズのTOKYO NODEでは、2025年は4月よりNHK Eテレの人気番組の展覧会「デザインあ展neo」を開催。大好評を受けて会期を延長し、累計約59万人を動員した。2026年1月29日～31日には、都市型クリエイティブフェスティバル「TOKYO PROTOTYPE(東京プロトタイプ)」を初開催し、3日間で約4.5万人が来場。虎ノ門ヒルズの過去最高来街者数を記録した。



セクション5:開かれた円環
展示風景:「藤本壮介の建築：原初・未来・森」森美術館(東京)2025年
撮影:八代哲弥 画像提供:森美術館



「森ビル デジタルアートミュージアム：エプソン チームラボボーダレス」
麻布台ヒルズ、東京 © チームラボ



和田礼治郎《MITTAG》2025年
制作協力:SCAI THE BATHHOUSE, Tokyo
Courtesy:SCAI THE BATHHOUSE, Tokyo
展示風景:「六本木クロッシング 2025 展：時間は過ぎ去る わたしたちは永遠」森美術館(東京)2025-2026年
撮影:竹久直樹 画像提供:森美術館



「高畑勲展—日本のアニメーションを作った男。」

デザインあ展 neo



「デザインあ展neo」は半年で59万人が来場。夏休みには連日家族連れで賑わいを見せた。また多くの外国人の来場も見られた。

TOKYO PROTOTYPE



「TOKYO PROTOTYPE」は3日間で約4.5万人が来場。街全体でクリエイターと来場者との交流が生まれる場となった。

再生可能エネルギー発電所を順次開発中

- 当社グループの温室効果ガス排出量削減目標については、2022年9月にRE100に参加、同12月に中間目標についてSBTi認定取得、2026年3月末時点で国内需要の約9割を再エネ電力に切替え完了。東京電力エナジーパートナー株式会社と『脱炭素推進に関する基本協定』を締結し、各物件への安定的な再エネ電力供給を目指す。
- 「営農型太陽光発電所」や「蓄電池併設型太陽光発電所」を順次開発中。2026年3月末時点で営農型：3施設、蓄電池併設型：1施設が稼働中（蓄電池併設型：2施設工事中）。各発電所では自治体と防災協定等を締結し地域防災力向上に寄与。「営農型太陽光発電所」では、サツマイモ（紅はるか）の苗植えや収穫体験イベント等を実施。
- 各発電所で生み出される再生可能エネルギー由来の電力は、オフサイトフィジカルPPAの仕組みを用い、当社が管理運営する物件に供給。関東エリアに広く点在する複数の再エネ発電所と、東京都心部で当社が管理・運営する複数の物件との間で、再エネ電力ネットワークを構築し、効率的な再エネ電力の供給を実現。
- 更なるエネルギー自給率の向上を目指し、太陽光発電や陸上大型風力発電の開発も推進中。



営農型太陽光発電所（茨城県筑西市の例）



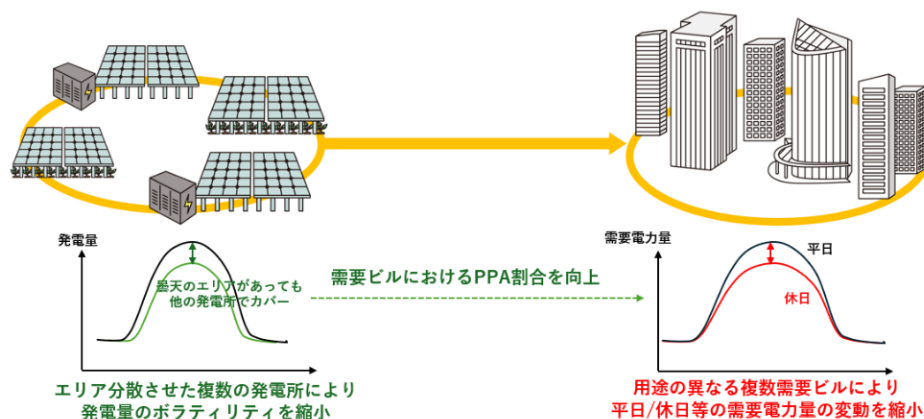
栃木市宮町営農型太陽光発電所



蓄電池併設太陽光発電所（栃木県栃木市）



営農型発電所での収穫体験の様子



「複数の再エネ発電所」と「複数の都心の物件」をつなぐ新たなPPAモデル

- 2026年2月11日、旧同潤会青山アパートの建て替え事業として、人と人、人と街、街と世界をつなぐ「MEDIA SHIP.(メディアシップ)」をコンセプトに誕生した「表参道ヒルズ」が開業から20年を迎えた。
- 日本のファッション・文化の中心として最先端のトレンドを発信し続けてきた表参道・原宿エリアの新たな核となるべく、建築家・安藤忠雄の設計により、街との調和を第一に考えた文化商業施設として誕生。
- 開業から20年が経過した現在でも日々国内外から多くの人々が訪れており、2025年度の売上は3年連続で過去最高を更新した。



表参道ヒルズ



表参道ヒルズ開業時の様子(2006年当時)



表参道ヒルズ開業20周年パーティーの様子

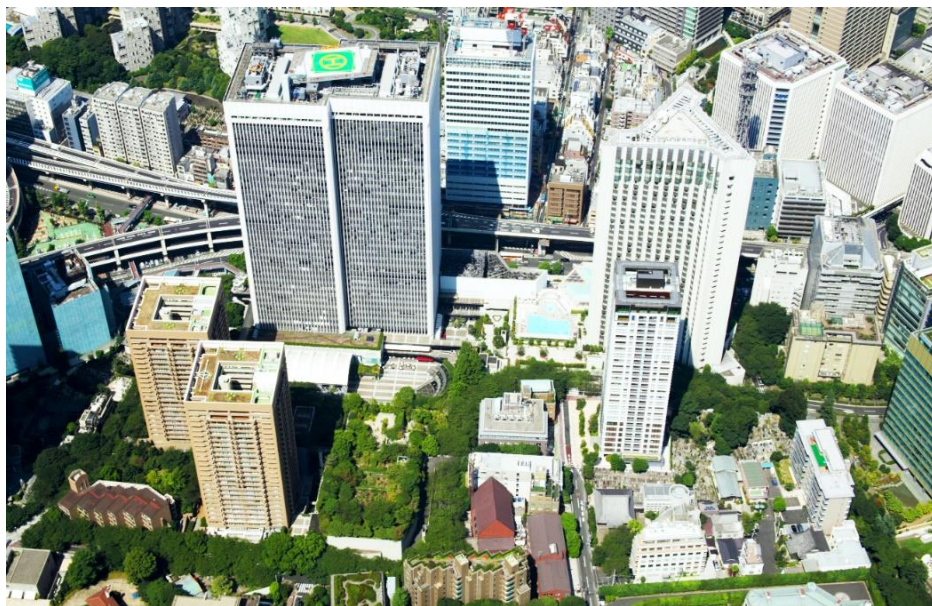


清掃活動



周年パーティー

- 2026年3月31日、民間による日本初の大規模再開発事業として、17年の歳月をかけて誕生した「アークヒルズ」が開業から40年を迎えた。
- 森ビルの都市開発モデルである「ヴァーティカル・ガーデンシティ」の具現化であり、国際水準のオフィス、住宅、ホテル、ガーデン、コンサートホールなど、多様な都市機能が徒歩圏内で集積したコンパクトシティ。六本木ヒルズ、虎ノ門ヒルズ、麻布台ヒルズに繋がる「ヒルズの原点」。
- 緑被率は1990年の23.2%から2025年には40.0%へと大幅に向上。多様な機能をもつ微生物が生息する土壌環境は、里山林のそれに近づいていることが明らかになった。
- 開業から40年が経過した現在でも、「ヒルズマルシェ」「ARK Hills Music Week」「秋祭り」などは多くの人々で賑わい、街には豊かなコミュニティが根付き、世代を超えて人々の絆が育まれ続けている。



アークヒルズ



四季を色濃く感じられる各種ガーデンや広場



ヒルズマルシェ



ARK Hills Music Week



秋祭り

「東京2025世界陸上競技選手権大会」のスポンサーシップ

- 1991年以来34年ぶりに東京で開催された「東京2025世界陸上競技選手権大会」について、当社は2024年11月に公益財団法人東京2025世界陸上財団とスポンサーシップ契約(公式イベントプリンシパルサポーター・不動産開発)を締結。
- 本大会のビジョン「東京ブランド～東京と世界を結び、東京らしさを発信～」は、当社の「東京を世界の都市に」という強い想いをもって世界の人々を惹きつける都市づくりに邁進する想いとつながるもの。本大会がスポーツの魅力や感動とともに、東京という都市の様々な魅力を世界に発信する好機となり、東京のさらなる磁力向上に寄与するとの思いから、様々な施策を実行し、大会の成功を支援した。
- 虎ノ門ヒルズの駅前広場「ステーションアトリウム」で実施した大会応援プログラム「Cheer for World Athletics Championships！」では、パブリックビューイングを開催したほか、陸上競技・世界各国の料理をテーマにした食事メニューなどを展開した。



【東京 2025 世界陸上競技選手権大会 概要】

- 主催：ワールドアスレティクス
- 大会期間：2025年9月13日(土)～21日(日)
- 会場：国立競技場、ほか
- 参加選手数：1,992名
- 参加国・地域数：193カ国・地域
- 種目数：49種目



虎ノ門ヒルズ ステーションアトリウムでのパブリックビューイング

「健康経営優良法人(ホワイト500)」に5年連続で認定

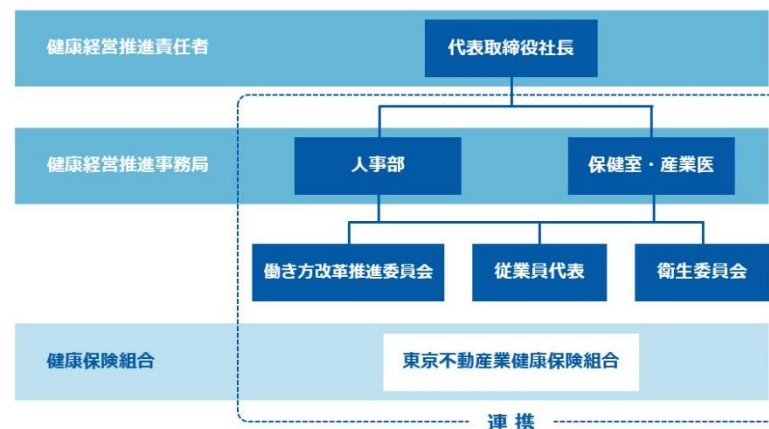
- 経済産業省による健康経営度調査において、「健康経営優良法人(大規模法人部門)2026」(ホワイト500)に5年連続で認定。

■森ビル健康経営宣言

森ビルは、社員一人ひとりが心身ともに健康で、意欲的に仕事に取り組めるよう、従業員等の健康管理を経営戦略として捉え、健康経営を推進してまいります。
社員の健康維持・増進を図ることで、個人と企業双方の活力とパフォーマンスを高め、さらなる成長・発展につなげます。
さらに、「都市を創り、都市を育む仕事を通じて人々や企業を元気にする」という当社の社会的使命を果たすため、住む人、働く人、訪れる人が心身ともに健康で、生き生きと過ごすことができる都市づくりをより一層進めてまいります。

■推進体制

森ビルでは、代表取締役社長を健康経営推進責任者として、経営的な視点からグループ全体の健康経営を推進しています。
また、人事部・保健室・産業医が健康経営推進事務局として、働き方改革や従業員代表、衛生委員会と連携して、社員の健康維持・増進のためのさまざまな施策を展開しています。
さらに、当社が加入する東京不動産健康保険組合とは、健康課題を共有し、施策の協議をするなどの連携をしています。



【健康経営度調査】

経済産業省が各企業の健康経営の取組状況と経年での変化を分析することを目的として2015年から開始。毎年この調査の回答内容を元に、「健康経営銘柄」の選定および「健康経営優良法人(大規模法人部門)」の認定を行う。

- 森ビル株式会社および麻布台ヒルズ、虎ノ門ヒルズ、アークヒルズが、サステナビリティの観点から国内外で高く評価。
- 虎ノ門ヒルズと新虎通り地区が「都市景観大賞(都市空間部門)」大賞を受賞。

国土交通省「優良緑地確保計画認定制度(TSUNAG)」で最高ランク取得(アークヒルズ)

「アークヒルズ」が、「優良緑地確保計画認定制度(TSUNAG)」の2025年度認定において、最高ランクである「★★★(トリプル・スター)」を取得。第1号認定に続き2件目の認定取得。

米国の国際環境性能認証制度「LEED」の「ND」、「BD+C」カテゴリでプラチナ本認証を取得(麻布台ヒルズ、虎ノ門ヒルズ)

「麻布台ヒルズ」と「虎ノ門ヒルズ」が、国際環境性能認証制度「LEED」のエリア開発を対象とした「ND」カテゴリ、及び新築建物を対象とした「BD+C」カテゴリで、共に最高ランクのプラチナ本認証を取得。同一物件の両カテゴリでのプラチナ取得は日本初の事例。

「GDP2025 気候変動のAリスト(最高評価)」に認定(森ビル株式会社)

企業等の環境関連の戦略や取り組みなどを評価・認定する国際的な非営利団体CDP(本部:英国ロンドン)より、「気候変動」分野の最高評価である「Aリスト企業」に、森ビル株式会社が3年連続で認定。

「都市景観大賞(都市空間部門)」大賞(国土交通大臣賞)を受賞(虎ノ門ヒルズ・新虎通り地区)

都市景観大賞(主催:「都市景観の日」実行委員会、後援:国土交通省)は良好な都市景観を創出する優れた地区や、景観に関する意識啓発・普及に貢献する活動を表彰し、より良い都市景観の形成を目指すものに送られる。「都市空間部門」と「景観まちづくり活動・教育部門」の2つの部門で表彰。根幹的なインフラ整備と一体的に開発された点や、複合的かつ地域とのなじみにも良く配慮されている点が高く評価された。



2025年度 下半期 主な取り組み（プレスリリース配信日）

9月4日	【アークヒルズ】「ARK Hills Music Week」2025開催
9月9日	【TOKYO NODE】「TOKYO NODE OPEN LAB 2025」10月17日（金）～24日（金）開催
9月10日	【麻布台ヒルズ ギャラリー】「劇場アニメ ルックバック展 —押山清高 線の感情」開催決定！
9月19日	森ビル 新たなコーポレートサイトを公開
9月25日	【虎ノ門ヒルズ】「awa酒 week at 虎ノ門横丁 2025」開催
9月30日	『CHRISTMAS HILLS 2025』11月4日よりスタート
10月6日	「都市景観大賞（都市空間部門）」大賞を受賞
10月9日	【麻布台ヒルズ】“廊下”で楽しむアコースティックライブ「廊下音楽」初開催
10月24日	国土交通省「優良緑地確保計画認定制度（TSUNAG）」でアークヒルズが最高ランク「★★★（トリプル・スター）」を取得
10月29日	「レジデンスB」が竣工し、麻布台ヒルズが完成
10月31日	麻布台ヒルズ、虎ノ門ヒルズ「LEED ND」「LEED BD+C」でプラチナ本認証を取得
11月5日	【麻布台ヒルズ ヒルズハウス】Dining 33が「Game Changer Award」を受賞
11月5日	【森美術館】「ロン・ミュエク」展開催
11月7日	森美術館名誉理事長 森 佳子 名誉大英勲章OBEを受章
11月18日	森ビル株式会社 2026年3月期中間決算のお知らせ
11月19日	第三者割当増資による新株式発行に関するお知らせ
11月20日	【TOKYO NODE】「TOKYO PROTOTYPE」開催決定
11月20日	「蓄電池併設型太陽光発電所」全3施設を開発
12月2日	【森美術館】《開幕》六本木クロッシング2025展：時間は過ぎ去る わたしたちは永遠
12月2日	虎ノ門ヒルズ ステーションタワー 日本建設業連合会「BCS賞」を受賞
12月11日	2025年 東京23区オフィスニーズに関する調査

2025年度 下半期 主な取り組み（プレスリリース配信日）

12月15日	虎ノ門ヒルズ ステーションタワー 第24回緑化技術コンクール「日本経済新聞社賞」を受賞
12月17日	「HILLS SWEETS SELECTION 2026」を開催！
1月5日	森ビル株式会社 2026年 年頭 社長所感(要旨)
1月6日	【訃報】弊社取締役および森美術館名誉理事長 森 佳子 逝去のお知らせ
1月8日	森ビル「CDP2025気候変動のAリスト(最高評価)」に認定
1月20日	【東京シティビュー】「天空の歩き方 in 東京シティビュー」開催決定
1月21日	【TOKYO NODE】「トニー・アウスラー:技術と霊知のはざま～魔術、メディア、アート～」が開催決定！
1月22日	【虎ノ門ヒルズ】「Toranomom Hills Bar Hopping ～飲んで食べて美食巡り～」開催
1月27日	役員人事のお知らせ
2月5日	麻布台ヒルズ「コージェネ大賞 民生用部門 理事長賞」を受賞
2月10日	【麻布台ヒルズ】「BLOOMING SPRING 2026 ～咲き誇るPINKと芽吹きGREEN～」を開催
2月12日	【森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス】開館2年で、世界170以上の国と地域から324万人以上が来館
2月13日	【東京シティビュー】『チ。—地球の運動について—』×東京シティビュー ～世界の見方が変わる体験を、展望台で～
2月25日	【表参道ヒルズ】2026年春 日本初上陸・旗艦店を含む7店舗がNEW OPEN
3月3日	【六本木ヒルズ】「六本木ヒルズ 春まつり 2026」開催
3月5日	【麻布台ヒルズ ヒルズハウス】「ヒルズハウス Sleep Biz 2026」を初開催
3月9日	「健康経営優良法人(ホワイト500)」に5年連続で認定
3月25日	【ラフォーレ原宿】愛と狂気のマーケット 4th Anniversary開催
3月27日	森ビル「ロサンゼルス・ドジャース」とパートナーシップ契約を締結
3月31日	森ビル初の「蓄電池併設型太陽光発電所」栃木県栃木市で運転開始
3月31日	森ビルの都市づくりを次代につなぐ、書籍2冊同時発刊 建築画報「森ビルの挑戦」新建築「麻布台ヒルズが拓く都市の未来」

添付資料

連結比較貸借対照表

(単位:百万円)

	2025年3月31日	2026年3月31日	増減
現金及び預金	247,805	332,109	84,303
営業未収入金	25,625	31,159	5,534
棚卸資産	43,257	59,691	16,434
その他の	54,809	49,040	△ 5,768
流動資産合計	371,497	472,001	100,503
建物及び構築物	598,088	678,367	80,278
機械装置及び運搬具	24,500	25,357	857
土地	665,248	705,647	40,399
建設仮勘定	25,465	12,871	△ 12,594
不動産仮勘定	98,499	1,590	△ 96,908
信託不動産	566,559	567,474	915
その他の	16,766	17,090	324
有形固定資産合計	1,995,128	2,008,400	13,271
借地権	59,776	61,162	1,386
その他の	15,586	14,836	△ 750
無形固定資産合計	75,363	75,999	635
投資有価証券	154,776	129,877	△ 24,899
エクイティ出資	22,589	22,586	△ 3
長期貸付金	70,409	46,239	△ 24,169
その他の	53,042	63,240	10,197
投資その他の資産合計	300,818	261,943	△ 38,874
固定資産合計	2,371,310	2,346,343	△ 24,967
資産合計	2,742,808	2,818,345	75,536

	2025年3月31日	2026年3月31日	増減
支払手形及び営業未払金	18,462	22,387	3,924
短期借入金	115,362	175,111	59,749
1年内償還予定の社債	50,000	10,000	△ 40,000
その他の	93,520	76,124	△ 17,395
流動負債合計	277,345	283,623	6,278
社債	190,950	180,950	△ 10,000
長期借入金	1,229,551	1,246,010	16,458
受入敷金保証金	116,376	119,271	2,895
繰延税金負債	139,474	145,989	6,514
その他の	12,627	8,306	△ 4,321
固定負債合計	1,688,980	1,700,527	11,547
負債合計	1,966,325	1,984,150	17,825
資本金	89,500	102,000	12,500
資本剰余金	32,611	45,151	12,540
利益剰余金	564,902	579,388	14,486
自己株式	△ 11,507	△ 11,507	-
株主資本合計	675,506	715,033	39,527
その他の包括利益累計額合計	88,360	103,740	15,379
非支配株主持分	12,616	15,420	2,804
純資産合計	776,482	834,194	57,711
負債純資産合計	2,742,808	2,818,345	75,536

連結比較損益計算書

(単位:百万円)

	2024年度	2025年度	増減
営業収益	385,874	411,124	25,250
営業原価	266,535	275,006	8,470
営業総利益	119,339	136,118	16,779
販売費及び一般管理費	35,042	38,130	3,088
営業利益	84,296	97,987	13,690
受取利息	1,364	2,167	802
受取配当金	377	823	446
持分法による投資利益	2,947	1,986	△ 960
為替差益	52	1,018	966
その他	2,394	2,351	△ 43
営業外収益	7,136	8,347	1,210
支払利息	10,338	13,332	2,993
金融手数料	1,320	1,217	△ 103
その他	1,189	565	△ 624
営業外費用	12,848	15,115	2,266
経常利益	78,583	91,219	12,635
特別損益	△ 1,265	△ 4,611	△ 3,346
税金等調整前当期純利益	77,318	86,607	9,289
税金等	26,182	34,493	8,310
非支配株主に帰属する当期純利益	655	△ 945	△ 1,601
親会社株主に帰属する当期純利益	50,479	53,059	2,580